

南宮遺跡Ⅱ

— 南長野運動公園建設地 —

(第三分冊)

[付]

— 市道篠ノ井中586号線道路改良地点 —

2002・2

長野市教育委員会

例 言

- 1 本書は、長野市（都市開発部公園緑地課）が施行する南長野運動公園建設に伴う緊急発掘調査報告書の第三分冊である。当初、遺構編・遺物編の二分冊を予定したが、多量の出土遺物ため三分冊とした。
- 2 本書は、出土遺物のうち代表的なものの写真を提示した。また、篠ノ井支所土木課が担当する市道篠ノ井中586線道路改良に伴う緊急発掘調査報告書を〔付〕として掲載した。
- 3 遺構・遺物を分離したため検索が煩雑であるので、別冊として遺構・遺物索引および正誤表、第二分冊補遺表、本文等正誤表を作成した。
- 4 提示した遺物写真の縮尺は同一ではない。実測図・遺物観察表等を参照にされたい。
- 5 遺構の呼称に略号をもちいた。冒頭のアルファベットは調査区を示し、次のS Bが住居址、S Kが土坑、S Jが土壇墓、S Dが溝址、S Eが井戸址、S Qが殿治址、S Zが不明遺構をそれぞれ表す。
- 6 遺物写真の撮影は千野 浩が担当し、墨書土器には赤外線フィルムを用いた。

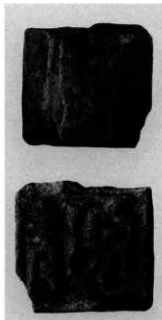
目 次

南宮遺跡Ⅱ遺物写真	1
1 特種遺物	1
(1) 宗清銘土製印鑑・古鏡・火熨・古銭・古銭・異形縁輪陶器	1
(2) 石鈔(遠方・丸輪・鈍尾)	2
(3) 紡錘車・硯・玉類・石鏃・未成品	3
2 編年土器	4
(1) 7期前半(9世紀第2四半期)	4
(2) 7期後半(9世紀第3四半期)	4
(3) 8期(9世紀第4四半期)	5
(4) 9～10期(10世紀前半～中葉)	6
(5) 10期(10世紀中葉)	6
(6) 11期(10世紀後半)	17
(7) 12期(10世紀後半)	17
(8) 13期(10世紀末～11世紀初頭)	18
3 土師器	21
(1) 皿・耳皿	21
(2) 鉢・片口鉢	21
(3) 甕	21
(4) 羽釜・甌	22
(5) 壺・甌形底部円孔土器	23
(6) 鼎形土器(獸脚鼎形羽釜形土器)	23
4 須恵器(長壺頭・取手付壺・四耳壺・坏・甕)	23
5 灰釉陶器	24
(1) 皿	24
(2) 段皿・耳皿	25
(3) 椀・小瓶	25
6 緑釉陶器(皿・耳皿・椀・無頸小壺)	26
7 赤色チャート内納合口坏・底部両面糸切り坏・底部内面指圧痕坏	27
8 灯明皿	28
9 転用硯	30
10 ミニチュア土器(祭祀用土器)	32
11 墨書・刻書土器	33
12 鉄製品	35
13 石製品	48
14 土製品	50
〔付〕市道篠ノ井中586号線道路改良地点	55

南宮遺跡Ⅱ遺物写真

1 特殊遺物

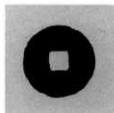
(1) 宗清銘土製印蓋・古鏡・火鋸・古銭・異形緑釉陶器



LSB151



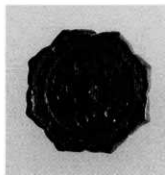
ISB115



LSE1



DSB11



GSB16



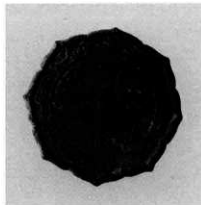
GSK36



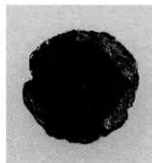
ISB248



HSD10



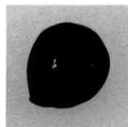
LSB26



ASK25

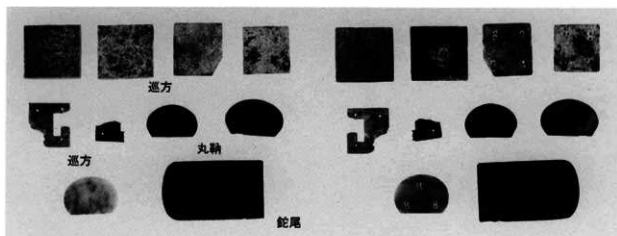


LSB26

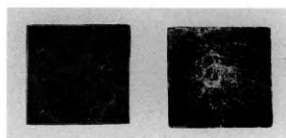


ESD1

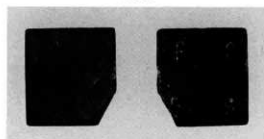
(2) 石 鈔



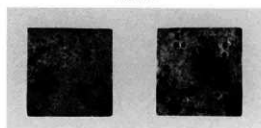
CSB3



ISB220



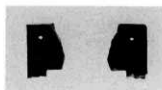
ESB3



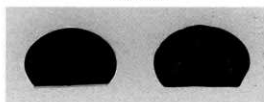
A 検出面



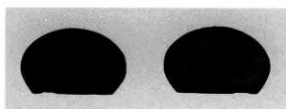
LSK54・SD24



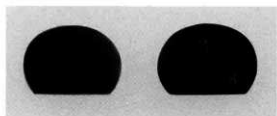
LSB154



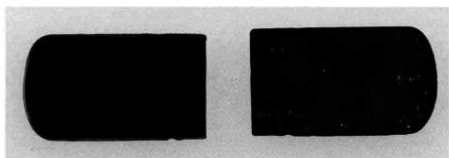
GSB5



KSB35

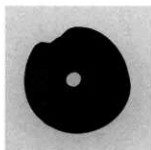


HSB4

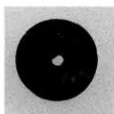


CSB18

(3) 紡錘車・硯・玉類・石鏃・未成品



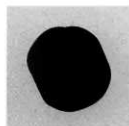
HSB47



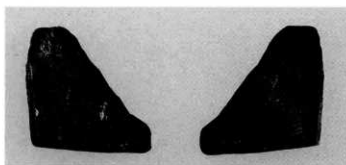
ESB39



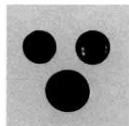
KSD6



LSB23



FSB45



DSB63 F検出面

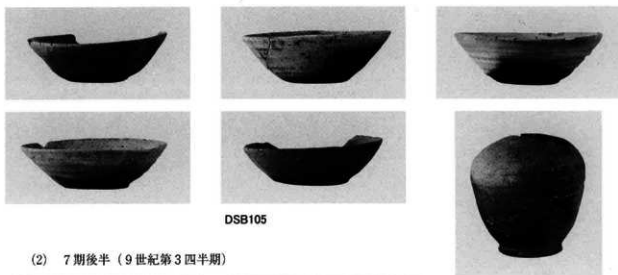


LSB54

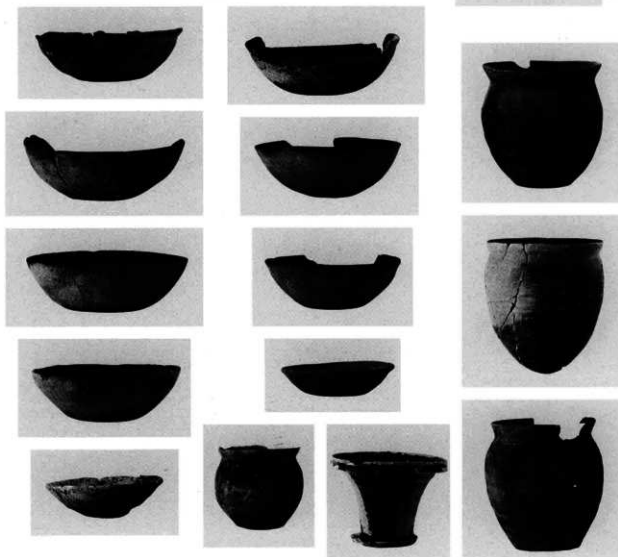
JSB16

2 編年土器

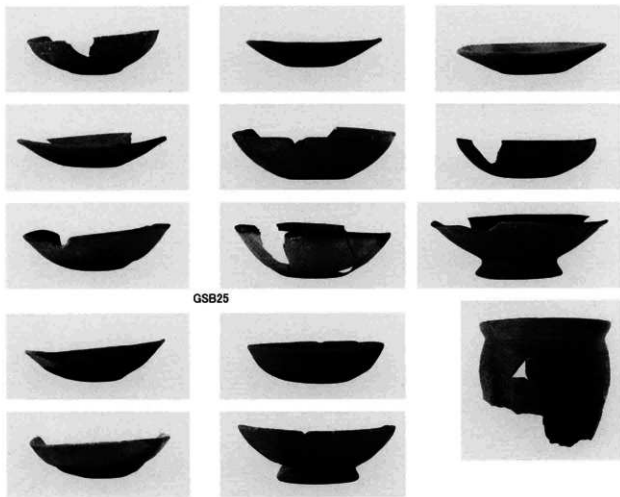
(1) 7期前半(9世紀第2四半期)



(2) 7期後半(9世紀第3四半期)

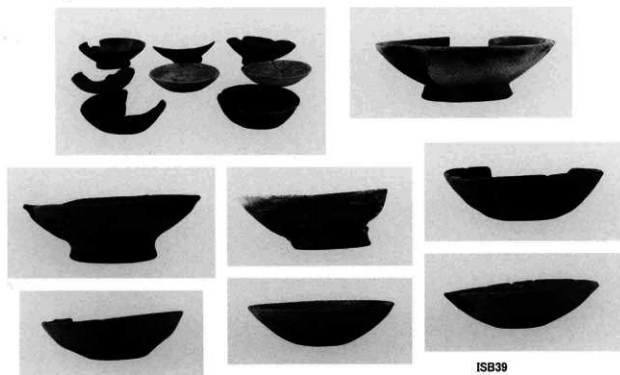


(3) 8期 (9世紀第4四半期)



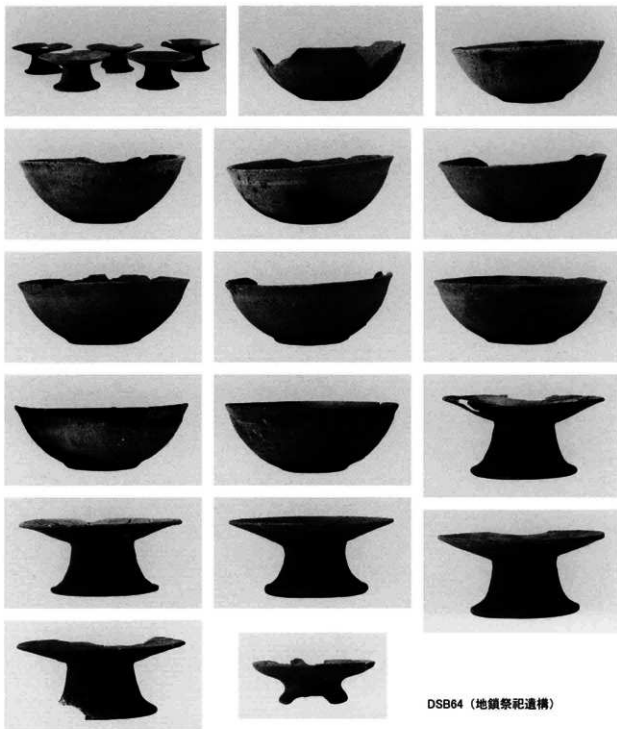
GSB25

ISB35



ISB39

(4) 9~10期 (10世紀前半~中葉)

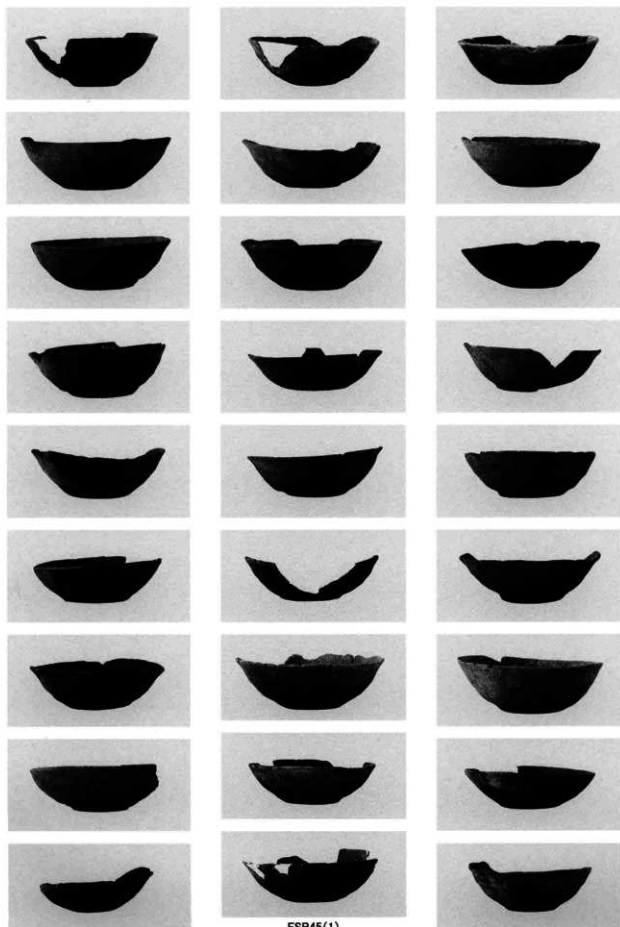


DSB64 (地鎮祭祀遺構)

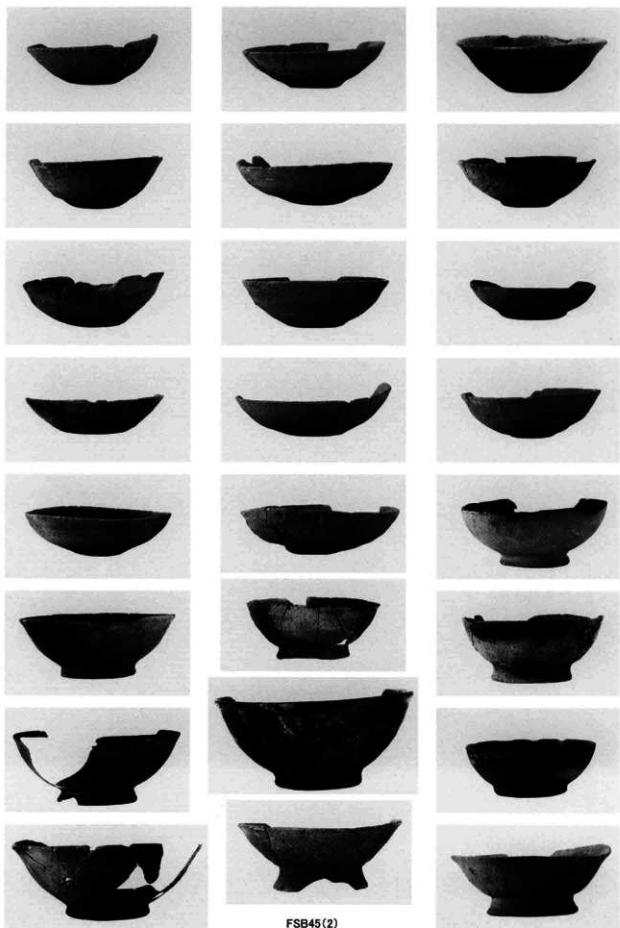
(5) 10期 (10世紀中葉)



ISB36



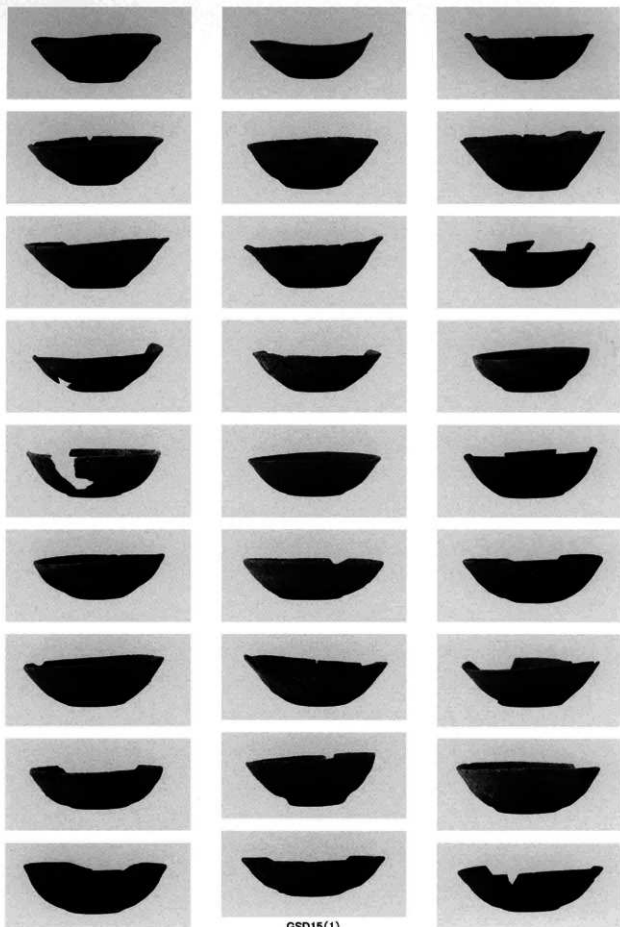
FSB45(1)



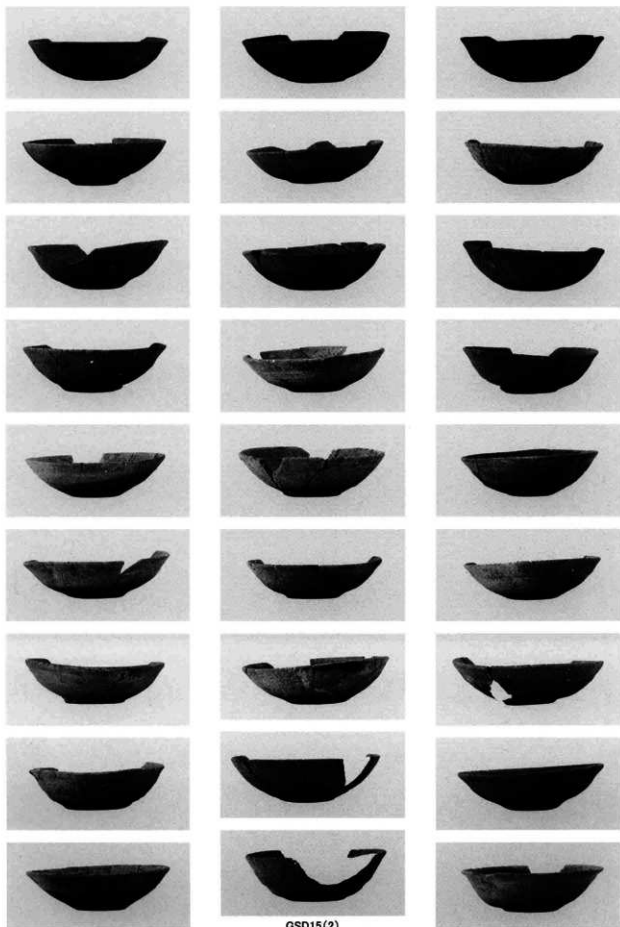
FSB45 (2)



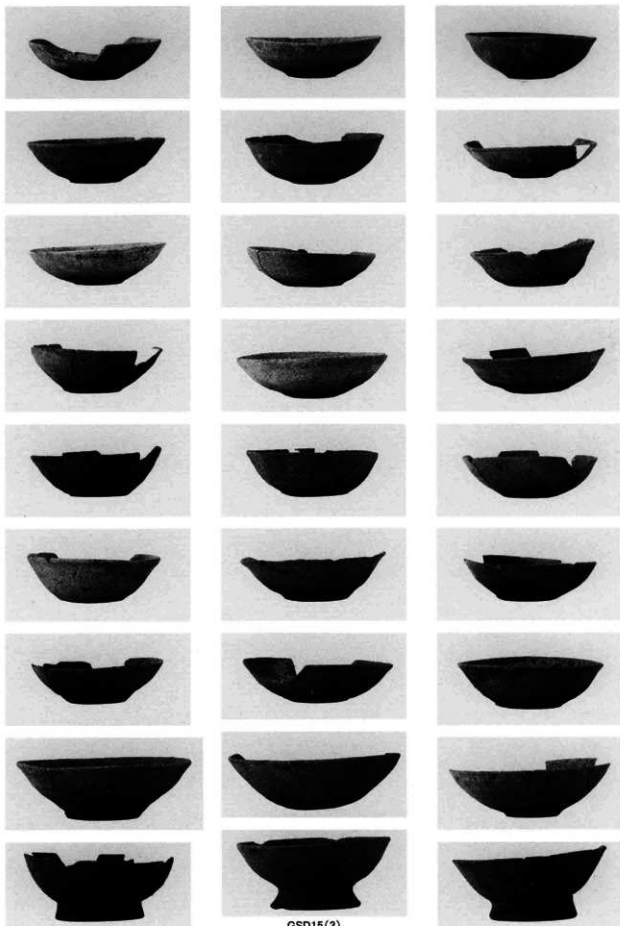
FSB45(3)



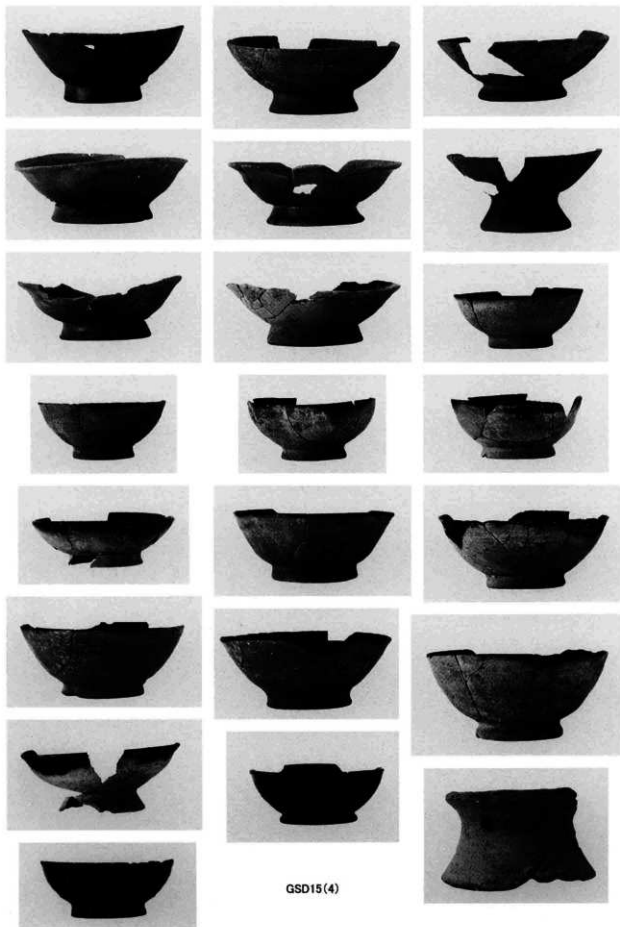
GSD15(1)



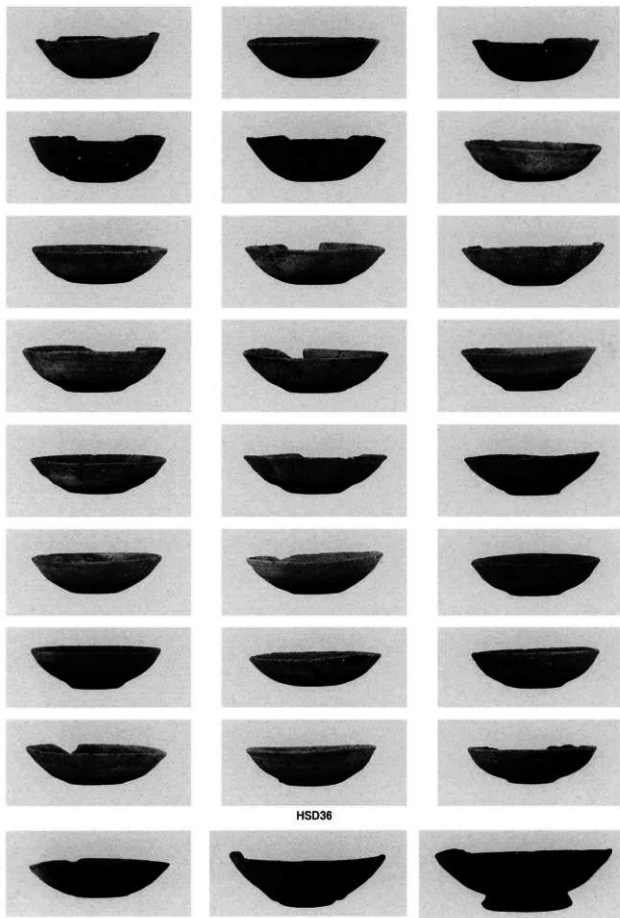
GSD15(2)



GSD15(3)

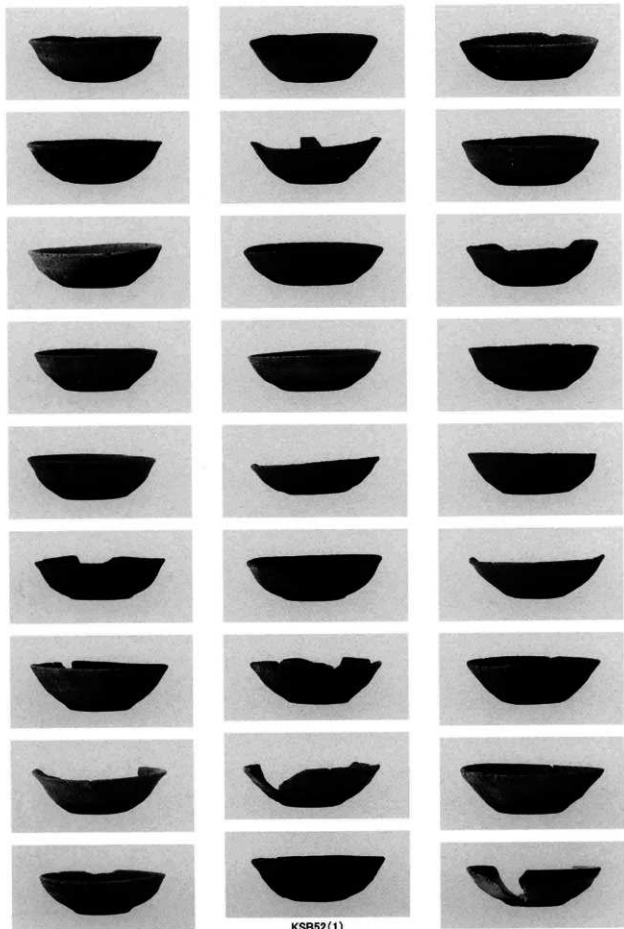


GSD15(4)

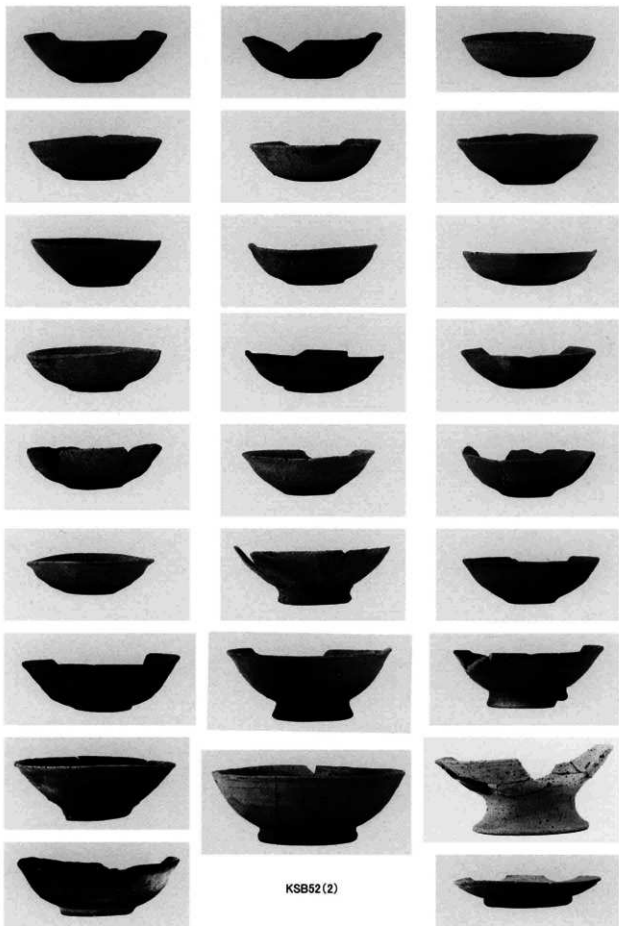


HSD36

ISB37

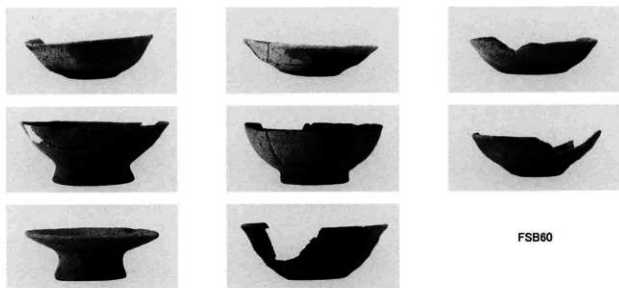


KSB52(1)

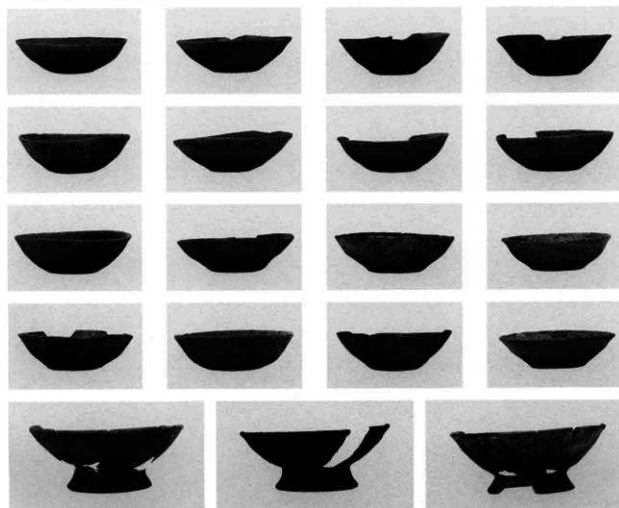


KSB52(2)

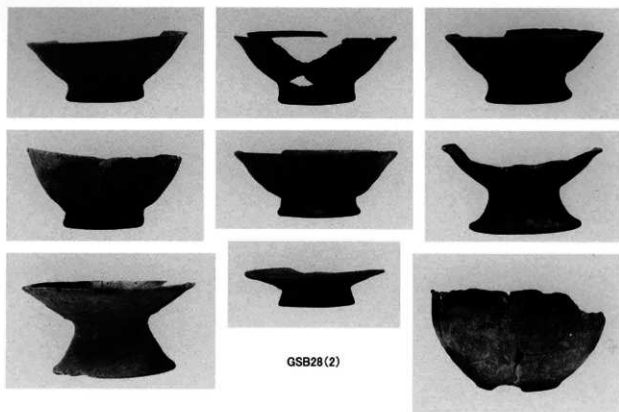
(6) 11期 (10世紀後半)



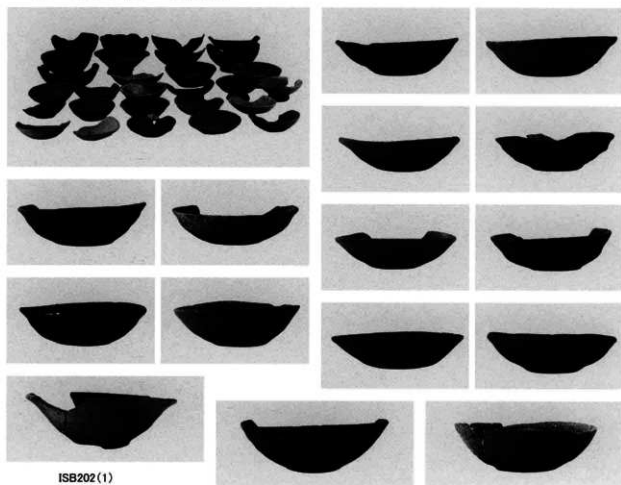
(7) 12期 (10世紀後半)

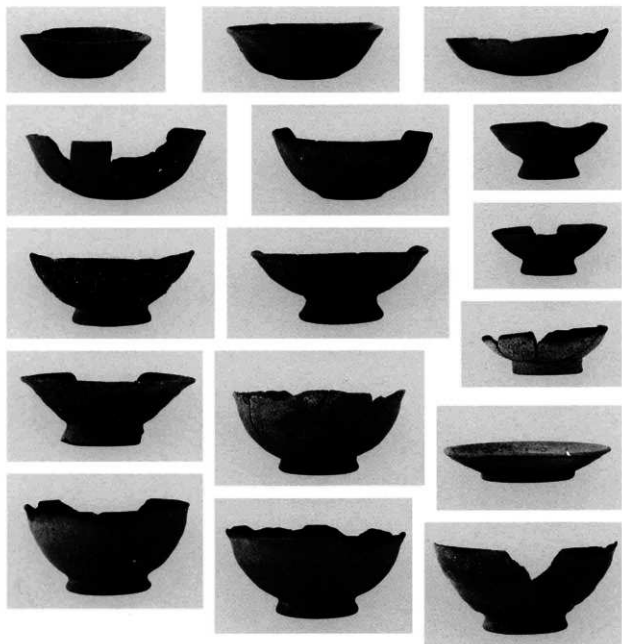


GSB28(1)

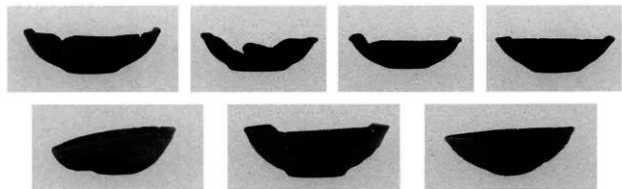


(8) 13期 (10世紀末~11世紀初頭)

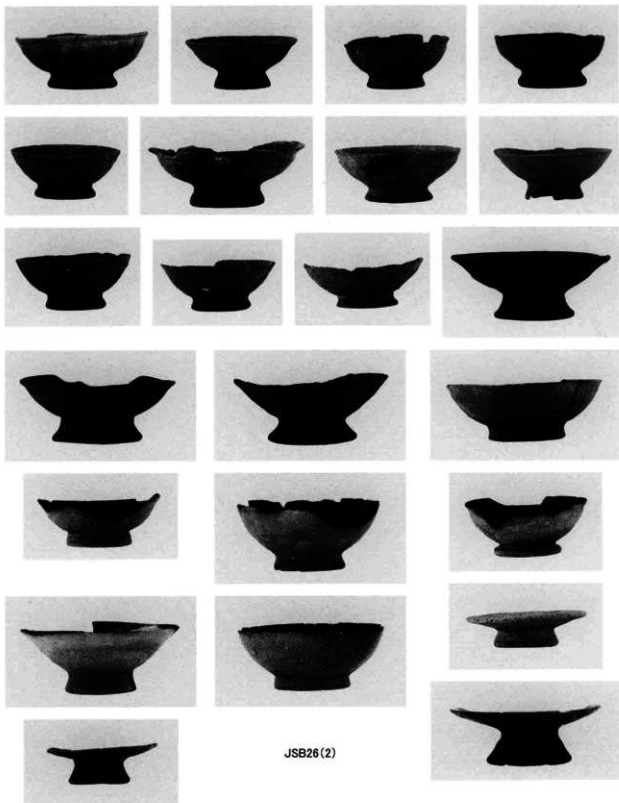




ISB202(2)



JSB26(1)



3 土師器

(1) 皿・耳皿



JSB1



HSB52



FSB33



ISB197



FSD20



ASD23



ISB239

(2) 鉢・片口鉢



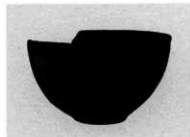
ASB28



BSB5



DSB122



FSB30



HSB39

(3) 甕



CSB18



FSB30



ISB158



ISB177



ISB198



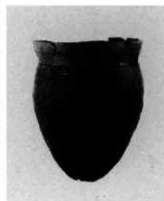
LSB62



LSB96



LSB155



LSB180



LSB217



YSB1

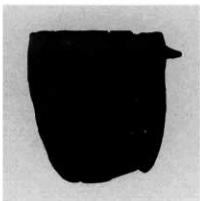


YSB1

(4) 羽釜・瓶



CSB13



KSB30



KSB34

(5) 壺・甌形底部穿孔土器



ISB240



KSB30



FSB27



FSB17

(6) 鼎形土器 (獸脚鼎形罍釜形土器)



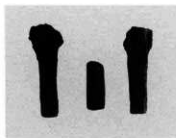
GSB6



DSB8



DSD2



DSB15

4 須恵器 (長頸壺・把手付四耳壺・坏・甕)



DSB125



ISB216



FSB65



GSB25



JSB17



HSD30



LSB40



DSB107



JSD8



GSB14

5 灰釉陶器

(1) 皿



ASB11



ASB16



ASB18



DSB22



DSB22



DSB37



FSB18



FSB44



FSK8



ISB103



ISB141



ISB146



ISB150



ISB176



KSB1



JSB1



JSB34

(2) 段皿・耳皿



ASB5



ASB39



DSB23



HSB25



ISB23



DSB28



ISB23



ISB150



ISB241



ISB150



ISB37

(3) 椀・小瓶



BSB19



FSB10



GSB32



GSK9



ISB163



FSB43



FSB33



FSB18



HSD33



ISB204



ISB106



ISB128



ISD37



GSK68



JSB32



ISD1-5

6 緑釉陶器 (皿・耳皿・碗・短頸小壺)



DSD31



DSD3



DSD31



GSK10



F 検出面



FSB45



JSB17



JSB17



JSB17



FSB45



GSB27



JSB19



JSB7

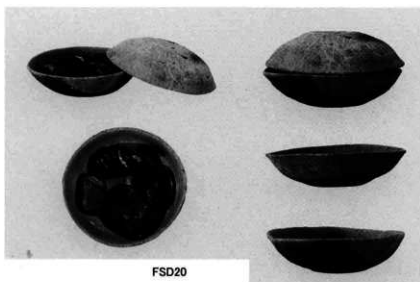


JSB21



HSB15

7 赤色チャート内納合口環・底部両面糸切り環・底部内面指圧痕環



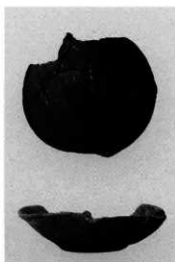
FSD20



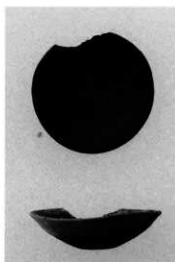
ISD1~4



FSD4

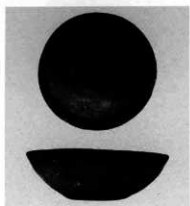


GSB24



GSB24

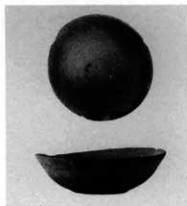
8 灯明皿



CSB12



DSB24



DSB38



DSD3



DSD14



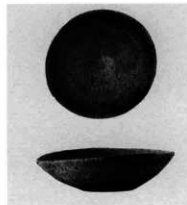
ESB9



FSB12



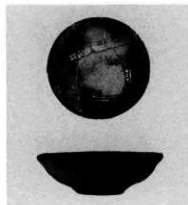
FSB37



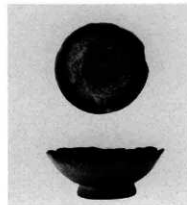
GSD15



GSB27



HSB56



ISB153



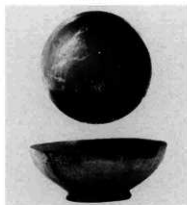
HSB41



HSB52



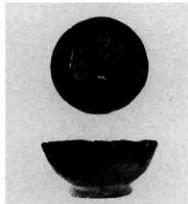
HSB56



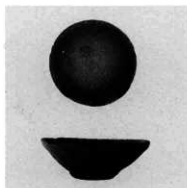
ISB39



ISB153



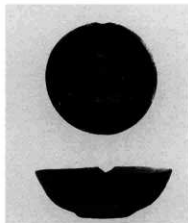
ISB156



ISB172



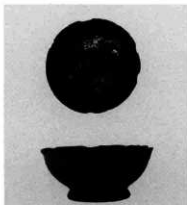
ISB214



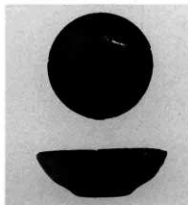
ISK77



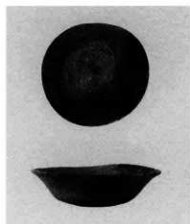
KSB12



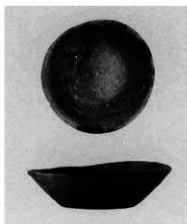
KSB12



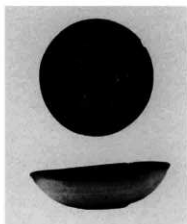
KSB52



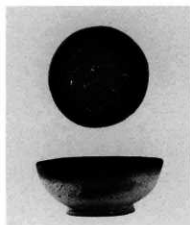
KSB108



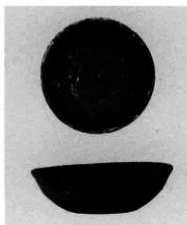
LSB24



LSB57



LSB57

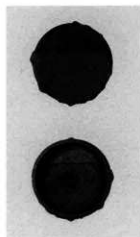


LSB159



LSB174

9 転用税



DSB50



FSB39



FSB48



FSB63



GSB5



GSB17



GSB19



GSB19



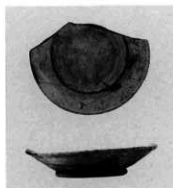
GSB33



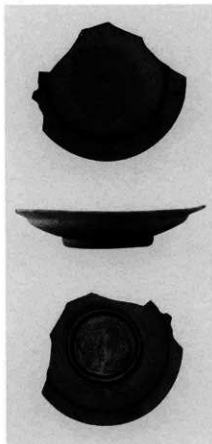
GSK34



HSB50



ISB267



GSB30



HSB50



ISB148



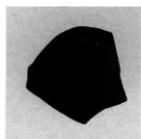
HSB37



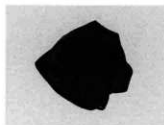
ISB132



ISB265



ISB158



LSB174



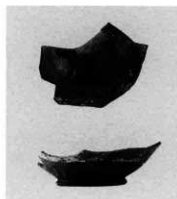
LSB143



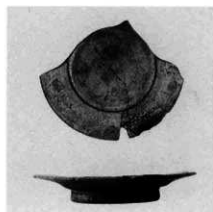
HSB81



LSB144



LSB161



LSB156

10 ミニチュア土器 (祭祀用土器)



ミニチュア土器



HSB19



ASB17



DSB1



ISB167



ISB181



HSB41



GSB22



HSB1



KSB53



LSB14



KSB1



JSB40



ISB196

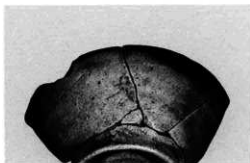
11 墨書・刻書土器



ASB8



ASB52



DSB100



ASB33



DSB105



DSB106



DSB125



DSQ2



ESB4



FSB50



FSB52



GSB21



GSB21



GSB33



GSK67



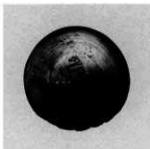
GSD18



HSB44



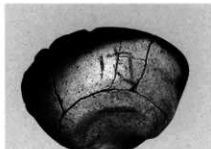
ISB45



LSB172



ISK32



LSB172



LSB174



LSB174



LSD75



DSB15



DSB43



DSB31



DSB125



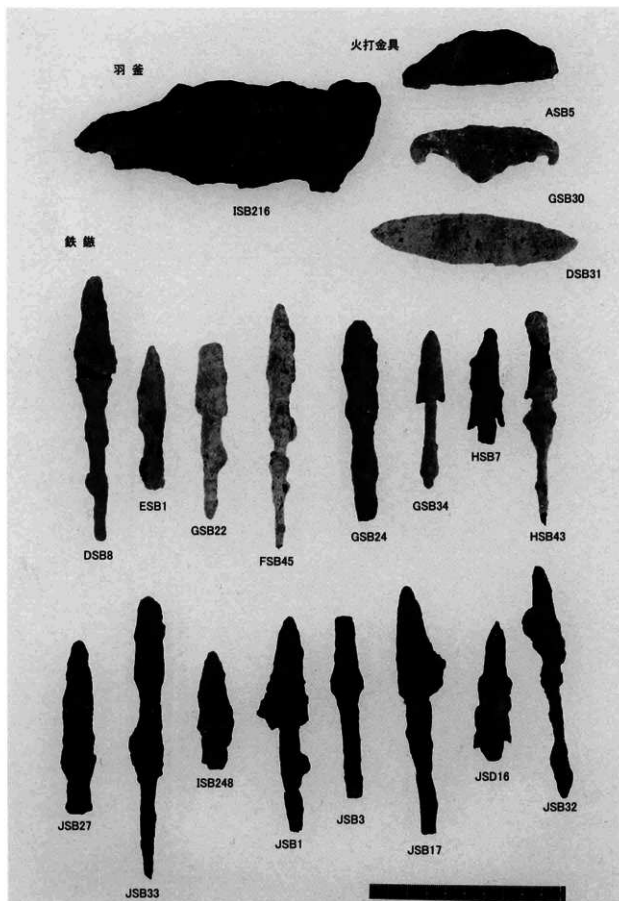
LSB109



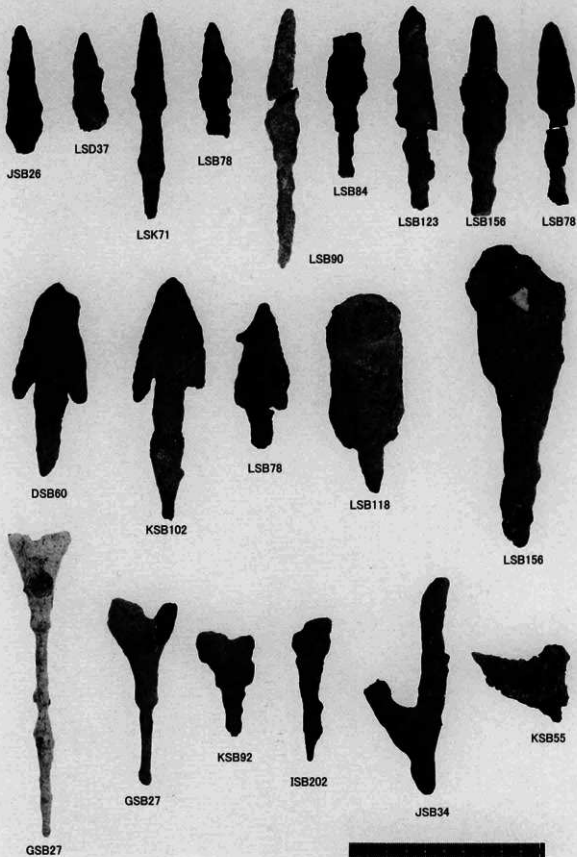
LSB105



LSD71



鉄 鍬



鉄 器



DSB15



JSB33



GSB27



ISK32



ISB163

刀 子



ASB20



ISB156



DSB81



ASB5



DSB60



DSB67



DSB18



FSB40



DSB34



FSB57



ISB34



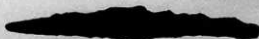
ISB145



GSB2



ISB163



ISB67



ISB89



ISB145



刀子

JSB34

ISB221

ISB230

ISB255

ISB250

ISB262

JSB24

JSB24

JSB1

JSK86

KSB99

JSK86

JSB34

LSB110

KSB25

LSD37

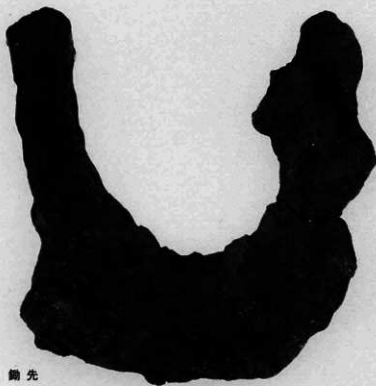
KSJ1

LSD28

LSB154

LSB105

LSB120



胸先

GSB10



并

ISB14

鎌



KSB27



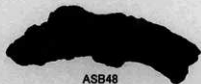
ASB21



ASB63



ASB48



ASB48

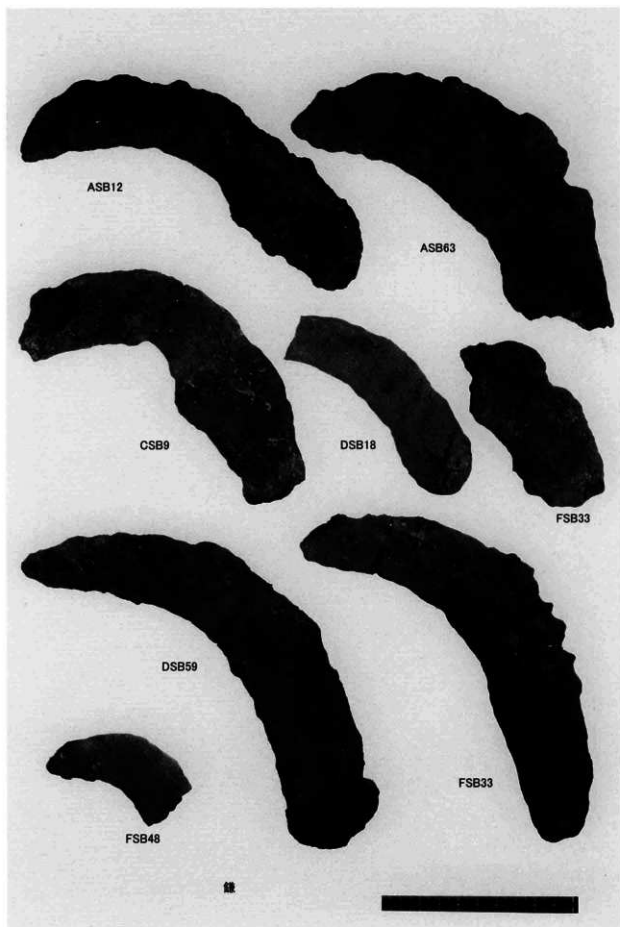


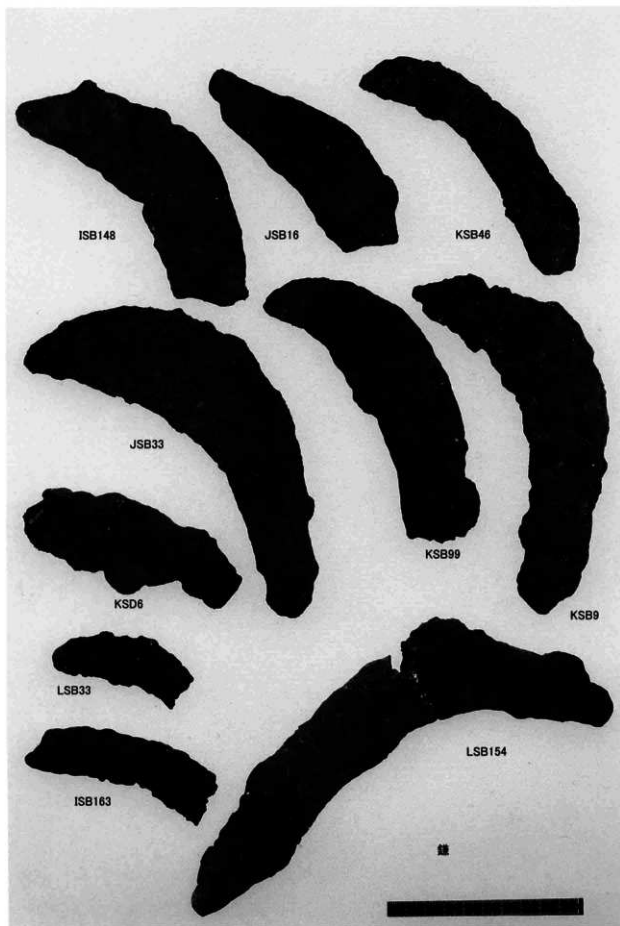
ASB57

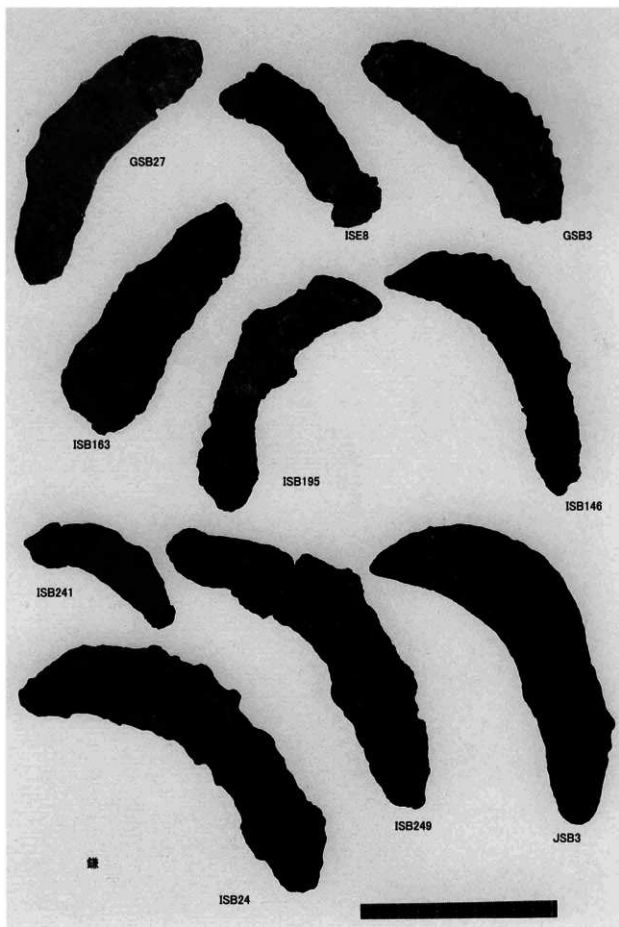


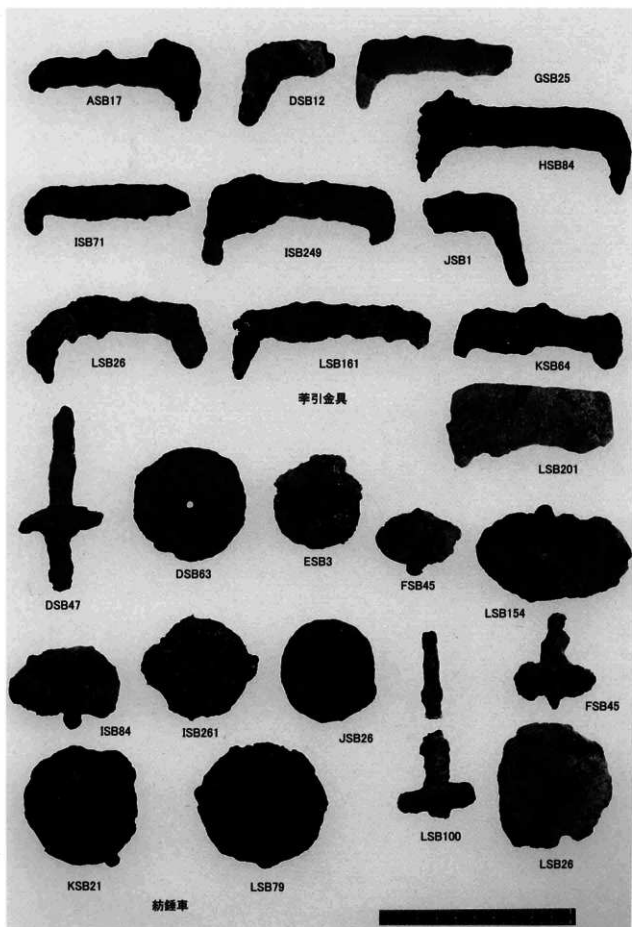
CSB22











紡錘車



LSB156



LSB100



LSB79



LSB78



JSB21



LSB177



LSB156



JSK87



ESK11

釘 他



ASB36

ASB29

ASB29

ASB29



ESK11



DSB11



GSB17



DSB90



GSB2



ISB182

刀子

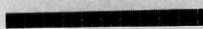


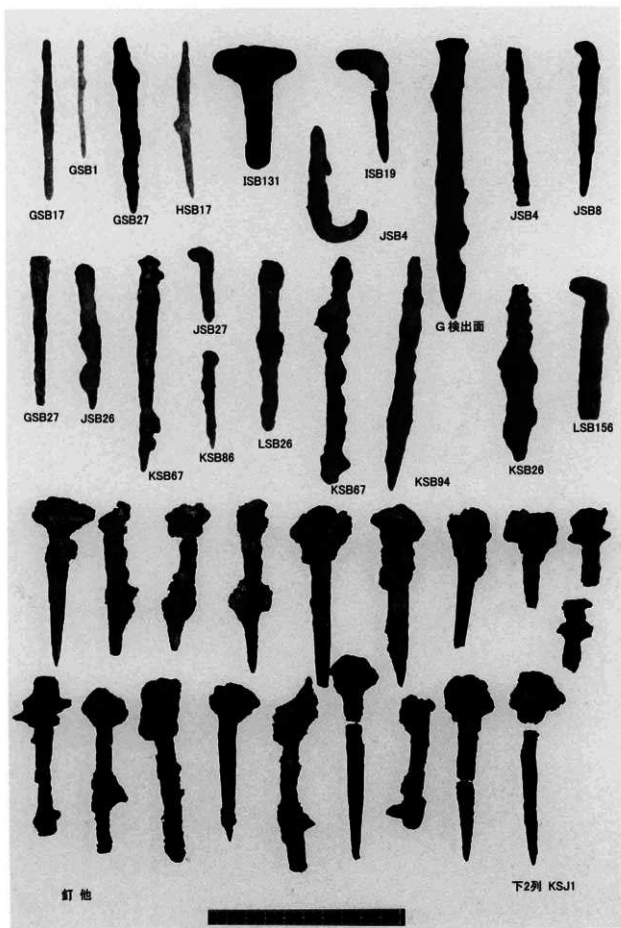
DSB47

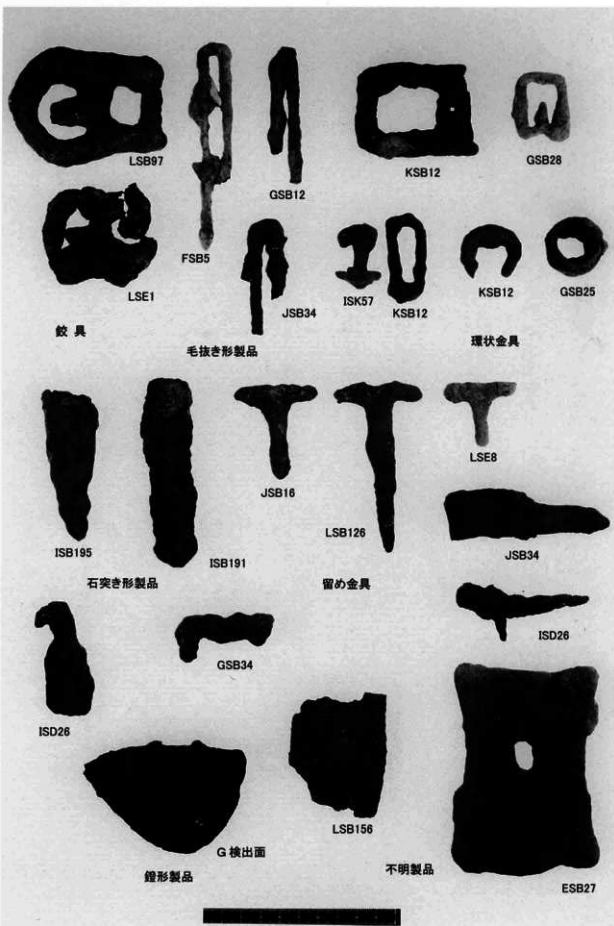


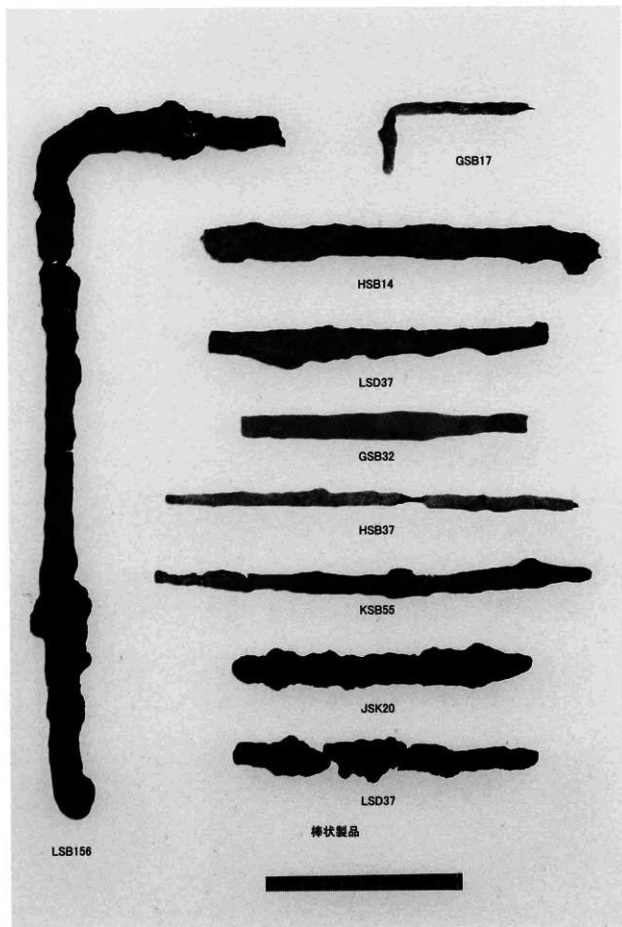
GSB1

金 鉗









13 石製品

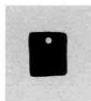
(1) 砥石・凹石



ISB239



KSB30



LSB7



LSB168



ISB261



ASB52



DSB23



FSB4



FSB52



ISB66



ISB72



ISB111



ISB231



DSB12



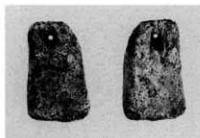
LSB119



ISB230



FSB5



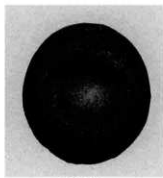
GSB27



DSB32



ESB40



DSB103

(2) 軽石製品



ISB225



ISB265



LSB90



ISB65



DSB18



ISB255



DSB81



KSB44



ISB258



ESB14



ESB39



LSB157



DSB15



ASB17



GSB10



HSB8



GSB12



LSB258



DSB36



ISB59



ISB1



ISB102



ISB255

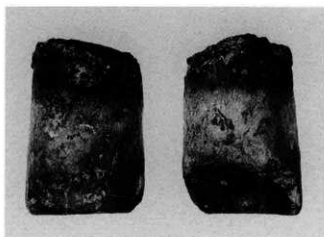


ASB12



14 土製品

(1) 羽口・埴埴



BSK4



DSB30



FSB47



G 検出面



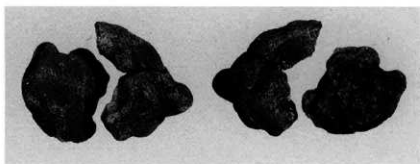
G 検出面



ISK98



LSD40



DSB9

(2) 土 鐘



ASB9



ASB15



ASB11



ASB22



ASB34



ASB45



ASB68



CSB3



CSB3



CSB3



CSB3



CSB3



CSB3



DSB43



DSB43



DSB43



CSB6



DSB9



DSB15



DSB63



DSB21



DSB31



DSB63



DSB74



DSB112



DSB109



DSB107



DSB117

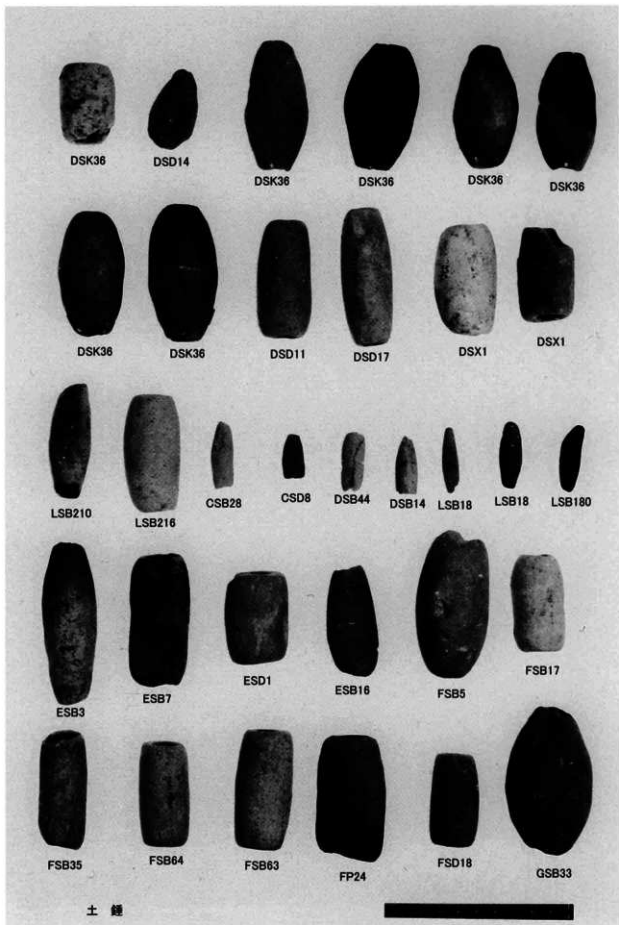


DSB117

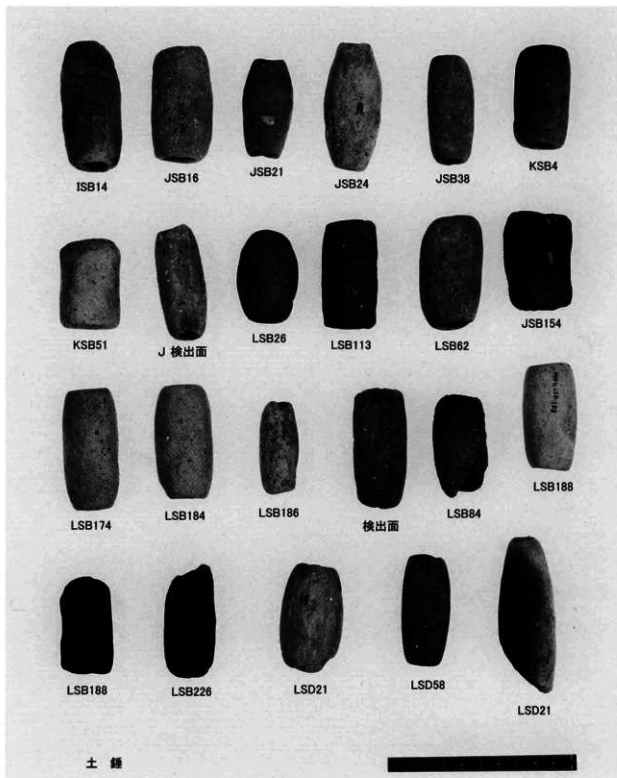


DSD21









〔 付 〕

—市道篠ノ井中 586線道路改良地点—

例 言

- 1 本書は、長野市（篠ノ井支所土木課）が施工する市道篠ノ井中 586線道路改良に伴う緊急発掘調査報告書である。
- 2 調査地は、長野市篠ノ井東福寺字南宮873-1他に所在する。
- 3 発掘調査は、長野市教育委員会埋蔵文化財センターの直轄事業として平成7年11月24日～12月8日に実施した。調査面積は 570㎡である。
- 4 報告書の仕様等は、「南宮遺跡Ⅱ」に準じた。
- 5 遺跡の略号は、「NNGⅢ」である。
- 6 発掘調査の従事者は以下のとおりである。
調査主任 矢口忠良
作業員 相沢純志子・小泉ひろ美・多城恵子・田中むつ子・富田景子・村松正子・関崎文子・田中はま江
- 7 調査によって得られた諸資料は長野市埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

I 調査地	56
II 遺構と遺物	57
III 結語	61

挿 図 目 次

1 図	地形図及び調査地	56
2 図	南宮遺跡 検出遺構実測図	58
3 図	南宮遺跡 出土土器実測図	59
4 図	4号住居址出土遺物実測図	59

写 真 目 次

- 1	調査地近景（南より）	56
- 1	2号住居址、3・4号溝址（西より）	60

I 調査地

市道五明西寺尾線における発掘調査の成果から、市道2から空田堰（1図）にかけての微高地には北および南に集落の展開が予想されていた。そのため道路改良事業の具体化を待って試掘調査を経ずに本調査を実施することになった。調査対象地は市道五明西寺尾線とほぼ平行する幅員5m・長さ約90mの新設道路地である。標高354.5mの位置にあり、空田堰との比高差50cmを測る。地目利用は果樹園・畑地である。



1 図 地形図及び調査地（1：5000）



I-1 調査地近景（南より）

II 遺構と遺物

1 遺構 (2 図)

調査対象地のうち遺構の展開がみられたところは、中央付近の50mの範囲におさまる。遺構検出面は地表下約40cmの黄褐色砂質土で、主たる遺構は住居址5軒・土坑2基・溝址5条を検出した。覆土は黒褐色砂質土である。各遺構とも調査範囲外に延びており、全形態を露呈できたものはない。住居址のうちカマドの所在があきらかなものは、南壁東隅に石材をもって構築された2号住居址1軒だけである。ただし、他の住居址は北側半分以下の検出であり、カマドを有していないのではなく2号住居址と同様に南壁に構築されている可能性が高い。4号溝址の覆土には白色系の砂が厚く堆積しており、溝底の勾配が僅かに北から南にあることから流路としての機能があり、犀川の洪水により埋没した可能性が考えられる。しかし、近接の市道五明西寺尾線地点まで延びておらず、南宮遺跡Ⅰ・Ⅱの調査では白色系砂の堆積遺構は確認されない。

住居址観察表

遺構名	形態	規模 (m)	主軸方向	内部施設等	特記事項	時期
		主軸×対軸				
1号住居址	方形?				SD2重複	
2号住居址	隅丸方形	—×3.15	N 8° W	南壁東隅カマド		10
3号住居址	方形	—×3.34	南北		SD3重複	10
4号住居址	方形	—×4.0	N 9° W	床面堅緻	銅腕・鉄鎌・刀子・鎌・紡錘車・砥石	10
5号住居址	隅丸方形	—×4.20	N21° W			

土坑観察表

遺構名	形態	規模 (cm)	説明	遺構名	形態	規模 (cm)	説明
		長軸×短軸×深				長軸×短軸×深	
1号土坑	不整楕円形	205×—×16	平底	2号土坑	円形	111×107×55	平底

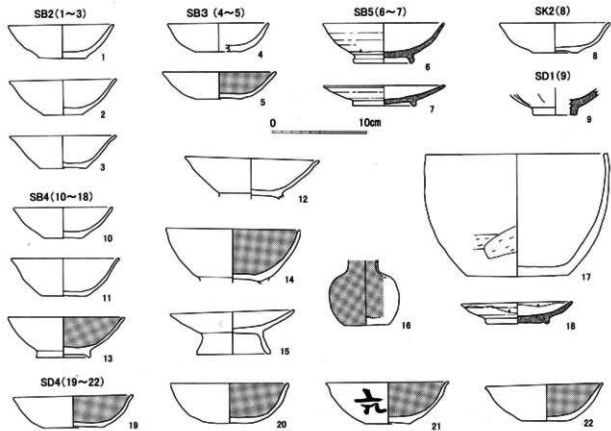
溝址観察表

遺構名	形態	規模 (m)	遺構名	形態	規模 (m)
		幅×深×長			幅×深×長
1号溝址	直線・U字形	0.37×0.18×1.27	4号溝址	直線・U字形	0.93×0.22×3.24
2号溝址	湾曲・U字形	0.74×0.21×6.80	5号溝址	湾曲・U字形	0.68×0.12×3.15
3号溝址	湾曲・U字形	0.72×0.22×10.0			

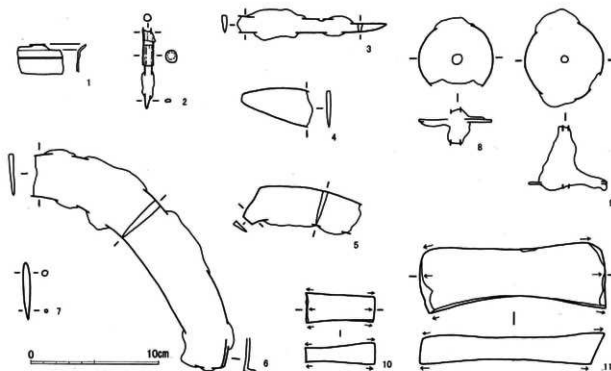
2 遺物 (3・4 図)

4号住居址の北壁よりから比較的多く出土しており、器種のセットとして認識されよう。土器類では土師器杯・碗・盤・小型壺・鉢、黒色土器碗、灰釉陶器皿があり、鉄製品では鉄鎌・刀子・鎌・紡錘車、砥石、銅腕がある。鎌は2本または3本の存在がみこまれ、紡錘車・砥石共に2個出土しており、多種の土器類、複数の

製品とともに銅腕片の出土に注目される。住居址は小型に属するものであるが、一般の住居址にみられない在り方を示している。1号溝址から蓮弁文を印刻した龍泉窯系の青磁碗片が出土している。



3 図 南宮遺跡Ⅲ出土土器実測図（1：4）



4 図 4号住居址出土遺物実測図（1：3）

土器類観察表

番号	種別	器種	法量 (cm)			遺存	特記事項	番号	種別	器種	法量 (cm)			遺存	特記事項
			口径	底径	器高						口径	底径	器高		
SB2							17	土師	鉢	19.2	10.6	12.9	完形		
1	土師	坏	11.3	4.9	3.6	完形		18	灰釉	皿	11.2	6.8	2.3	◇	
2	◇	◇	11.4	4.1	3.7	1/4		SB5							
3	◇	◇	11.4	5.0	3.7	1/6		6	灰釉	椀	12.8	6.5	4.3	1/2	
SB3							7	◇	皿	12.8	6.6	2.2	1/3	外底朱墨転用 硯	
4	土師	坏	10.8	4.8	3.0	1/3		SK2							
5	黒色	◇	12.0	4.8	2.8	1/6		8	土師	坏	11.6	4.6	3.2	1/5	
SB4							SD1								
10	土師	坏	10.6	4.2	3.3	完形		9	青磁	椀		4.6		1/7	うす緑色釉・ 蓮弁文
11	◇	◇	11.6	4.6	4.0	1/3		SD4							
12	◇	椀	14.3			ママ		19	黒色	坏	12.8	6.2	3.3	2/3	底回転 ヘラケズリ
13	黒色	椀	12.5	5.8	4.3	1/4		20	◇	◇	12.4	6.0	4.2	1/3	底ヘラケズリ
14	◇	◇	14.2			1/2		21	◇	◇	13.0	4.8	4.4	1/4	墨書
15	土師	盤	13.1	7.8	4.6	3/4		22	◇	◇	12.5	5.2	3.9	完形	◇
16	◇	壺		4.8		ママ	阿面黒・ 底ヘラミガキ								

4号住居址遺物(4図) 1-銅椀-口縁部外反、頸部下方有段、体部直線。2-鉄鎌茎-矢柄付着、断面円形。3-刀子-残存長11.5cm・刃部幅1.6cm。4-鎌-6の切先部?。5-鎌-鉞状、刃部幅2.7cm。6-鎌-刃部幅2.7cm。折り返しL字状・高1.0cm。7-釘-無頭、断面円形、全長4.5cm。8-紡錘車-直径5.7cm・厚3mm、軸径7mm。9-紡錘車-直径6.1cm・厚2mm、軸径5mm。10-砥石-凝灰岩、仕上げ砥。11-砥石-凝灰岩、仕上げ砥、全長14.5cm。



II-1
2号住居址、3号・4号溝址
(西より)

Ⅲ 結語

- 1 遺構の密集度が粗くなり、また微高地の中央付近に限定して展開することから南宮遺跡遺構群のうちV群の最北に近い遺構と認識する。
- 2 時期的には古代8期（平安時代・9世紀代）の4号溝址を初源に、古代10期（10世紀中葉）に盛期があり、中世の1号溝址をもって終焉をむかえる。
- 3 4号住居址出土遺物は同時期の一括資料として時代比定に重要な資料となろう。



Ⅲ-1
4号住居址遺物出土状態

報告書抄録

ふりがな	なんぐういせき							
書名	南宮遺跡Ⅱ							
副書名	南長野運動公園建設地〔付〕市道篠ノ井中586号線道路改良地点							
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第96集							
編集者	矢口忠良・千野 浩・烏羽英継							
編集機関	長野市教育委員会埋蔵文化財センター							
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414 Tel 026-284-0004							
発行年月日	2001年3月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
南宮遺跡Ⅱ	長野県 長野市 篠ノ井他	20201	E-032	36度 34分 42秒	138度 10分 08秒	19930714 ～ 19960731	60,600	南長野運動公園建設
(市道地点)	同上	同上	同上	同上	同上	19951124 ～ 19951208	570	市道建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
南宮遺跡Ⅱ	集落跡	平安時代 (古代5期～15期)	検出住居址 1,014軒 時期確認遺構 住居址 1,008軒 溝址 156条 土坑 175基 地鎮祭遺構		土器・陶器類多量 鼎形土器 異形緑釉陶器 宗清銘土製印鑑 八稜鏡・和鏡 火罨・銅椀・石鈿 鉄製品多数		和名抄記載の斗女郷の 中心集落跡 9・10期に盛期	
(市道地点)	同上	同上	検出住居址5軒 溝址5条・土坑2基		土器・陶器類・銅椀 鉄製品・砥石		南宮遺跡北東端の遺構	

長野市の埋蔵文化財第96集-3

南宮遺跡Ⅱ

平成14年2月12日 印刷

平成14年2月15日 発行

編集 長野市教育委員会
 発行 長野市埋蔵文化財センター
 印刷 奥山印刷工業株式会社